

中国での強制臓器収奪に関する独立民衆法廷への提出物

氏名：アブドゥウェリー・アユブ

私の名前はアブドゥウェリー・アユブです。1973年カシュガル市で生まれました。現在はトルコに住んでいます。2013年8月19日に地元の中国国家の治安警官に逮捕されました。オンラインの書き言葉を通してウイグルの人々のための言語上の権利を促進し、カシュガルでウイグル語を母国語とする幼稚園を開園したからです。ウルムチとホテンで母国語幼稚園を計画していたときに逮捕されました。2014年11月20日に釈放されました。釈放されたあと、カシュガルの英語教育センターに就職しましたが、私の前科者としての経歴と警察からの圧力のため、生徒の数はどんどん減りました。友人や親戚も私に連絡を入れることを恐れました。カシュガルでは警官が常に私を呼び止め、私の身分証明証をチェックしました。拘束され収監されたときにひどく拷問を受けたので、警官の制服を見ると常に恐ろしく思いました。身分証明証をチェックするたびに私の「前科」を見つけ、手荒く扱われました。監獄から釈放されたあとも、この「前科」のため、2回逮捕されました。最初は2014年の12月でした。約4時間、監房に入れられました。私を侮辱するために、トイレの大便を洗うよう命じられました。2度目は2015年7月7日でした。SWAT（特殊警察）チームが約30分、私を打倒し、殴打し、蹴ったあと、約6時間、監房に投げ込まれました。この逮捕以来、夜寝ることができません。また逮捕されるのではないかと常に神経が高ぶっています。

2015年8月25日、カシュガルを強制的に立ち退かされました。警官が市内でアパートを借りることにに関して警告したのです。こうして自分の故郷に住む機会を失い、国を立ち去ることに決めました。

逮捕された時、腕を背中に回され、手錠をかけられ、同時に頭巾を被せられ、警察の車に投げ込まれました。最初は警察署に入れられ、「タイガー・ベンチ」と呼ばれるものに座らせられました。尋問が始まる前に、手首、足首、首が鎖で椅子に縛り付けられました。尋問中、彼らは私の手のひらを叩き、彼らが問責する罪を私が認めるように威嚇しました。殴打されても威嚇されても、私は何も認めませんでした。すると、午後9時ごろ、私を逮捕した3人の男が、留置所に私を連れて行きました。まず、ホールに連れて行かれ裸にされました。そこには約20人の殺人や強盗の犯罪者が詰めていました。裸にされた私を取り囲み攻撃しました。そして立方体のような監房に投げ込まれました。そこでは立ち上がることはできず、這って動くことしかできません。蓋のない便所が不快な臭いを放ち耐え難い環境でした。

翌日ウルムチに搬送されました。午後の9時頃に到着しました。尋問の手順は全く同じでした。「タイガー・ベンチ」に縛り付けられ、手や肩を殴打され、口頭尋問で威嚇されました。この辛い体験のあと、病院に連れて行かれました。頭巾を被せられていたので病院の名前はわかりません。身体を徹底的に検査されました。X線が撮られ、唾液・尿・血液が採取され、冷たいジェルを塗布されて様々な臓器が検査されました。その後、テンリタフ留置所に連れて行かれ、到着すると殴られ、それから監房に入れられました。監房は小さく、ガラスでできていました。留置所用語では「3Dの監視」と言われていました。そこでもまた殴打されました。

20名ほどのウイグル人の囚人がいました。私を含めて3人が政治犯でした。テンリタフ留置所では、ウイグル人60%、中国人40%でした。

尋問の内容は「なぜ米国から戻った？どの機関がおまえをここに送り込んできたのか？ウイグルの機関とその他の国際機関とお前の関係は？」というものでした。繰り返し尋問された質問は「だれが米国からお前をここに送り込んだ？」でした。

テンリタフ留置所では死刑囚と同じ監房にいることはありませんでした。しかし、六道灣監獄に9月10日に移されたあと、11月ごろに、アブドゥラフマンというグルジア出身のウイグル人死刑囚と監房を共にしました。その後、私は別の監房に移動しました。12月に処刑され、グルサイ墓地の当局が埋葬したと他の者から聴きました。遺体は家族のもとには返されませんでした。1ヶ月後、家族が墓地の周りに花を植えたいと申し出ましたが、彼の墓の周りの土を乱すことは1年間禁じると言われたということを知りました。彼の臓器が摘出されたに違いありません。家族は埋葬の前に顔だけを見ることができました。遺体を清めたいと願いましたが、認められませんでした。隠すことがたくさんあるので、当局のほうで、遺体を家族に見せないようにしたと確信しています。他の二人のウイグル人も処刑されたと、彼らの処刑について知っている者から聞きました。処刑後の手順は全く同じでした。家族は顔だけを見ることが許され、埋葬の前に遺体を清めることは許されませんでした。当時は通常のことでした。